

事例発表③ 水の学校

武蔵野市環境部 下水道課 水循環推進係長 高橋 正之

平成4年東京都武蔵野市入庁（建設部交通対策課）。20年都市整備部道路課、25年岩手県大槌町復興局環境整備課（災害派遣）、27年から環境部下水道課水循環推進係に配属となり、水環境の保全事業に努める。

皆さん、こんにちは。武蔵野市環境部下水道課水循環推進係の高橋です。本日はご参加いただき、ありがとうございます。

私からは「水の学校」という事業についてお話させていただきます。

当市では水にまつわるさまざまな事業を行っていますが、それらの事業を関連づけながら、市民が楽しみながら学ぶための学習の場として生まれたのが「水の学校」という事業です。

「水の学校」は、市民の皆さんと一緒に水環境を体系的に理解し、楽しみながら考えを深め、行動へつなげるという講座です。平成26年度にスタートし、今年で4年目となっております。平成27年度には第8回国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞いたしました。

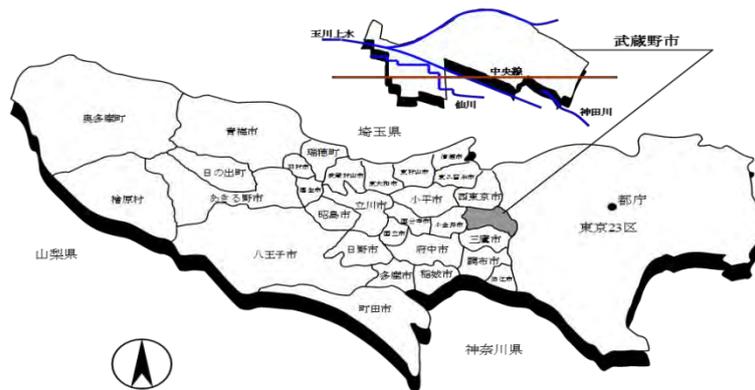
本日は、最初に武蔵野市の概要を説明させていただき、その後に「水の学校」について説明させていただきたいと思います。

1. 武蔵野市の概要

武蔵野市（1）は東京都特別区の西部に接し、都心より20km西方に位置しています。人口は平成29年4月1日現在で約14万5,000人で、面積は1,098haです。ある統計によると、全国791ある市の中で面積は781位ととても小さい市ですが、人口密度は全国第2位となっています。

地質は、地上から10mくらいまでが関東ローム層で、下部は砂礫層、そしてその下が水脈となっています。地形は、標高が約50mから65m、西から東へ緩やかな傾斜で、所々に窪地があって、その箇所ですみ水などが発生しています。

図－1 武蔵野市の位置



2. 「水の学校」誕生の背景

「水の学校」誕生の背景には、下水道施設の重要性や更新等に莫大な費用がかかることや、浸水対策や合流式下水道の問題点などについて、市民の皆様を知っていただきたい、ということがあります。

市内には、先ほど申し上げましたがすり鉢状の窪地が点在し、ゲリラ豪雨のときに浸水被害が発生しており、それを防ぐためには、被害地域だけではなく市全域で雨水の対策を進めていかななくてはなりません。例えば、大型施設の工事が必要なときは周辺住民の皆様にご迷惑をおかけすることになり、ご理解ご協力をいただかなければなりません。そして、市域の約7割が住宅地となっているため、各家庭で雨水浸透ます、雨水貯留タンクの設置が不可欠であることを理解していただく必要があります。こういった事業が水循環系を改善し、私たちを取り巻く水環境、川や海、公衆衛生をよくするためにも役に立つということも理解していただきたいと思っています。

また、武蔵野市の下水道は昭和27年から工事着工しており、老朽化した管が多く、これからの更新のため費用が必要になってきますが、それがどうしても使用者である、市民の皆様からいただく下水道使用料に影響してくることについても、ご理解いただきたいと思っています。

こういったことは、市役所だけが何かをすればいいということではなくて、市民の皆様を知っていただき、ご協力いただくことが必要不可欠となっています。

3. 平成26年度開校！水の学校の特徴

このような経緯を経て、平成26年度に「水の学校」が生まれました。

「水の学校」の目的は、市民が、自発的に水環境や地域をよりよくする活動をしていく

ためのきっかけづくりとなることです。そして、そのための学びや一緒に活動していく仲間づくりの支援をしたいと考えています。

「水の学校」の連続講座の受講生は、受講した後、それぞれができる範囲で地域で水環境に関わる活動をするのが期待されています。市が何か言っている、ではなく、市民の皆様のコミの力をお借りしたい、という思いがあります。

そういったことで、連続講座の対象は市内在住・在勤・在学の15歳以上の方で、全6回の講座にすべて参加できる方を対象としています。特筆すべき募集方法としては、無作為抽出でのDMや、SNSの活用があります。

4. 水環境全体の啓発～連続講座

下水道が地域や地球全体の水のめぐりの中でどのような位置づけにあり、どんな役割や使命を持っているのかを学んでさらに発信していくためには、下水道のことだけでは不十分です。そのため、連続講座では水環境の全体を通して学んでもらいます。

連続講座は全部で6回で、私たちの使える水がどこにどれだけあり、どこから来て、どこへ行くのか、そして、身の回りにある水と暮らしの関わり、雨や川と地形やまちについて、施設見学やまちあるきを通して、体験を共有し、一緒にワークショップ形式で考え、意見を出し合い、さまざまな「気づき」を思い、振り返る講座としています。

今年度の連続講座受講生は27名です。平成26年度から、30名前後で行っています。図-2に今年度の「水の学校」の連続講座の内容を示します。

図-2 平成29年度の「水の学校」連続講座

水の学校 連続講座一覧

ワークショップ形式の講座です。各回の体験・見学を通して気がついたこと、考えたことを受講生同士で共有します。「水」を知り、私たちのくらしとのつながりを見つけましょう。
※予定は変更になることがありますので、ご了承ください。

特典

- 連続講座受講生へ、最終講座の際に「水の学校」修了バッジを贈呈します。
- 「水の学校」修了生は次年度以降の「水の学校」企画運営に、サポーターとして参加していただけます。

2016年度の修了バッジ

- 1 6/17(土)** 午後1:00~4:00 会場：スイングホール
「水の学校2017」開校式～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり
ファシリテーター：「水の学校」名誉校長 橋本淳司氏(水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)
- 2 7/8(土)** 午後1:00~5:00 集合：武蔵野市第一浄水場
武蔵野の水はどこから？～水道水がつくれる場所を訪ねてみよう
- 3 9/9(土)** 午後11:30~午後5:30 集合：三鷹駅
使った水はどこに行く？～森ヶ崎水再生センター見学
- 4 10/14(土)** 午後9:00~午後5:00 集合：三鷹駅
雨のめぐりから考える、武蔵野台地の地形・湧水・川～仙川・野川と国分寺崖線
講師：神谷博氏(水みち研究会)
- 5 11/18(土)** 午後1:00~5:00 集合：三鷹駅
まちを守る下水道施設～武蔵野市内地下施設見学ツアー ※雨天の場合は内容を変更いたします。
- 6 12/16(土)** 午後1:00~4:00 会場：スイングホール
修了式・最終講座 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水
ファシリテーター：「水の学校」名誉校長 橋本淳司氏(水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)

5. 水環境全体の啓発～オープン講座・イベント

次に、連続講座に参加できない方のための取り組みを紹介します。

私どもでは、連続講座に参加できない方のためにも「水環境」に親しみ、毎日使う水について考えるきっかけを作っていただきたいため、1回完結型講座や当日自由参加のイベントも開催しています。

具体的には、夏休みの親子向けプログラムや水道・下水道に関する施設見学会、水に関する地形・まちあるきなどで、このようにさまざまな講座を予定し行っています。これらの情報については、市報やホームページ、Facebook で随時お知らせしています。

6. 市民目線での水環境活動～「水の学校」サポーター制度～

連続講座を受けた方は、そのあとが重要です。修了した方を「サポーター」と呼んでいますが、サポーターには、①自主活動をする、②「水の学校」の講座に関わる、③伝える、という主に3つの活躍の方法があります。

6.1 自主活動をする

1つ目の「自主活動をする」ですが、誰かに何かを言われてではなく、自発的に、水の学びをさらに深められる場所、例えば湧き水が出ているような場所に修了生のメンバーで行ってみたり、ほかにも、地域の集まりで水環境にまつわる話をしたり、小学校などで雨水有効利用のお話をしたり、地域の水の歴史を調べたりといった活動をされている方も、現在いらっしゃいます。

6.2 講座に関わる

2つ目の「講座に関わる」というところですが、次年度以降の受講生を育てるということで、水の学校の講座でもっとこんなことをやったほうがいいのか、企画から市と一緒に考えていただいています。

また、実際の講座の中では一部解説をしていただいたり、受講生のフォローをしていただいたりしています。

市の職員は異動もありますので、水の学校を修了したサポーターさんのほうが職員よりも本当によくいろいろなことを知っておられます。それは、水の学校以外でもその修了生の方が今まで得てきた知識を、水の学校の活動の中で活かしていただいているというのも非常に大きなところだと思います。

将来的にはサポーターさんが活動を担えるように、自発的な活動を育てていくための仕組みの一つとして、仲間づくりをしながら、徐々に活動の場を広げていければと考えてい

ます。

6.3 伝える

水の学校を修了したサポーターさんの活躍の場3つ目、最後は「伝える」ということです。

いろいろな人に水環境に親しんでもらう、また興味を持ってもらうためにどんなことができるのか、サポーターさんと市が一緒になって話し合いながら、お互いできることを担当し、イベントに出展したり、啓発品を作ったりということをしています。本日お配りしているカラー刷りパンフレット『Oh!水』も、水の学校の修了生の意見を取り入れてつくられたパンフレットになっています。

7. 今、これからの水環境啓発

今まで「水の学校」事業についてお話ししてきましたが、今のままでよいというわけではなく、今後の課題もあります。

これまでの取り組みには一定の効果もありました。例えば、水環境啓発に市民も主体的に関わっていただけるようになったこと。また、下水道の視点だけではなく環境負荷全体の視点を共有したこと。これは、参加した市民の方だけではなく、私も含めて市の職員にとっても大きな気づきであり、大事なところです。

こうした取り組みを行う中で、幾つかの課題も見えてきました。

1つは、下水道だけでない視点と言いましたが、ごみやエネルギー、そして歴史、防災分野との関わりです。水環境と密接に関わる分野は下水道だけではなく幅広くあります。さまざまな分野の専門の方と連携を取り、それぞれの専門性の中で考えを深めていく必要があると考えています。その中で見えてくる課題や、その解決策も出てくるのではないかと考えています。

そして課題の2点目は、より若い人へのアプローチが大事だということです。こちらは、小さなお子さん向けのイベントや、学校現場にも積極的に出ていきたいと考えています。お子さんを対象にして啓発をしていったときに、親子で一緒にイベントに参加していただけるとと思いますので、親世代にもお話をすることができ、とても有効ではないかと考えています。

これらの課題を解決していくためにも、市民中心の啓発をもっと進めていきたい。それは、市民の目線で、市民の発想で、今まで水の学校を修了したサポーターさんたちが力を発揮していただいていますので、それを活かしていきたいと私たちは考えています。

武蔵野市では今回初めて下水道展にブースを出展し、「水の学校」についても紹介しています。今回の武蔵野市の出展では、会期中に「水の学校」のサポーターさんに来ていただき、一緒にブースをつくりあげています。ぜひ武蔵野市のブースにお立ち寄りください。

私からの発表は以上になります。ありがとうございました。